

利活用ミーティングの活動報告

- イベント開催報告
- ヤチヤナギの利活用について
- 利活用施設の整備内容について



イベント開催報告



これまで実施してきた利活用活動

幌向湿原を良くする

湿生植物導入

外来種駆除フットパス



外来種駆除フットパス
外来種(ユウゼンギク)の除去

幌向湿原を知る

夕張川治水感謝式へ出展

幌向小環境学習の支援



治水感謝式
幌向自然再生紹介パネルの展示状況

幌向湿原が好きになる

湿原イベント

ヤチヤナギの利活用
※次項で説明



湿原イベント
湿生植物の移植体験

野祭での展示

湿生植物の導入

- 地域主体による運営技術の強化に向けて、2023（R5）年度から湿生植物の苗づくり技術継承を実施した。
- 苗づくりの手順書を作成し、地域主体で育苗から導入までを流れを遂行できるような仕組みづくりを行った。

湿生植物の導入

幌向自然再生

湿生植物の苗づくり・移植手順書

苗づくりは大きく分けて、①種子採取、②播種、③育苗、④苗移植の、4つのステップがあります。

Step1 種子採取

湿原に残る植物から直接、種の採取を行います。

- 実施時期：毎年10月頃
- 対象植物：ノハナショウブ、タチギボウシ、サワギキョウなど

- 採取方法：
 - ・個体ごとに成熟した実から直接種を採取する。
 - ・採取した種を種別ごと袋に分けて回収する。



種子採取(湿原イベント)



播種(試行会)

Step2 播種

採取した種をまいて、発芽させます。

- 実施時期：毎年12月頃
- 播種方法：
 - ・土を敷いた育苗トレイを苗の種別の数だけ準備する。
 - ・トレイごとに種類つつ種を播き、種類の名札を設置する。
 - ・種を播いたのち、路地で雪をかけて春まで待つ。

※冬季の播種が難しい場合は、翌年の春（4～5月上旬）に蒔いても良いです。



育苗(江別すずらん病院)

Step3 育苗

春になって芽吹いた苗からポットを作成します。

- 実施時期：毎年6月頃
- 苗ポットの作成、育苗方法：
 - ・芽吹いた苗を小分けにする。
 - ・小分けにした苗を数株つつポットに入れる。
 - ・移植までの間、水やりのみで育苗する。



苗移植(星置養護学校)

Step4 苗移植

育成した苗を現地に植えます。

- 実施時期：毎年8月・10月頃
- 苗ポットの作成、育苗方法：
 - ・移植ゴテを使って、ポットの大きさのくぼみを掘る。
 - ・くぼみにポットから外した苗を植え付ける。
 - ・植え付け直後に水やりをし、その後は自然に任せる。



外来種駆除フットパス

- 幌向地区自然再生地内に生育する外来種(ユウゼンギク等)の定着・拡大を防ぐことを目的に駆除を行った。
- 外来種による在来・導入植物への影響や問題点について説明を行った。
- フットパスでは、遊友館から幌向再生地までをゴミ拾いしながら移動した。

実施履歴

外来種駆除イベント(6回開催)

- ・ 2019(令和1)年8月18日
- ・ 2020(令和2)年8月16日
- ・ 2021(令和3)年8月15日
- ・ 2022(令和4)年8月21日
- ・ 2023(令和5)年8月20日
- ・ 2024(令和6)年8月18日

イベント実施状況



外来種の説明



現地説明



外来種(ユウゼンギク)の除去



除去したユウゼンギク、収集ゴミ

外来種

ユウゼンギク



2016年9月撮影



2019年7月撮影

フットパス



ゴミ拾いをしながらフットパス(行き)



フットパス(帰り)



フットパス説明

オオアワダチソウ



2018年8月撮影

夕張川治水感謝式へ出展

- 南幌町を水害常襲地帯から穀倉地帯へと変貌させた治水工事への感謝、工事の過程で犠牲となった方の供養として、治水感謝式のセレモニーが行われた。
- 展示ブースには、PR動画、紹介パネル、湿生植物、湿原イベントのチラシ、紹介パネルのチラシを配置した。
- 「ほろむい湿原再生」のロゴを配置した横断幕を作成した。

実施履歴

夕張川治水感謝式 (3回出展)

- ・ 2018 (平成30) 年7月1日
- ・ 2019 (令和 1) 年7月1日
- ・ 2024 (令和 6) 年7月1日



治水感謝式のセレモニー



チラシ (表面)

チラシ (裏面)

「喜びの歌」出演者紹介

◆ 梶原由紀 (びんごう) (札幌市在住の音楽家)

◆ 梶原由紀 (びんごう) (札幌市在住の音楽家)

◆ 梶原由紀 (びんごう) (札幌市在住の音楽家)

展示ブース (幌向自然再生)



紹介パネルの展示状況



湿原イベントのチラシ配置

展示ブース (夕張川治水事業)



紹介パネル



湿生植物の展示



湿生植物の展示

幌向イベントチラシ (両面)

紹介パネル・チラシ

ほろむい 幌向地区の自然再生地の概要

幌向地区の植物

幌向自然再生 紹介パネル・チラシ 湿地性植物 紹介パネル・チラシ

横断幕

幌向小環境学習へ支援

- 小学校の環境学習(総合学習)の支援として、幌向小学校の総合学習「幌向学」における湿原学習と苗移植活動を行った。
- 事前学習の教材として、A5版の「ほろむい 湿原再生ガイドブック」を作成した。
- 苗移植活動は、駐車場に近い池の周囲で300株の苗を移植した。
- 当日は、生徒(5年生)46名、先生5名が参加した(大型バスにて移動)。

実施履歴

幌向小学校環境学習(3回支援)

- ・ 2022(令和4)年 9月 1日
- ・ 2023(令和5)年 8月31日
- ・ 2024(令和6)年10月 5日

事前学習の教材



ほろむい 湿原再生ガイドブック

駐車場、トイレ



大型バスの駐車



トイレ設置

移植体験準備

移植場所



苗の配置



池への転落を防ぐ目的で、池との境界にピンクテープを設置

苗の配置



移植ゴテ、軍手



手洗水、水分補給用飲料水



活動状況

幌向地区自然再生地 取組紹介



幌向地区自然再生地 現地説明



移植の説明



移植体験



移植体験



野祭での展示

- 南幌町内の広報活動として、農猿(のうえん)主催の野祭(やさい)にブース出展を実施した。
※補足:「野祭」は、若手農家グループ「農猿」が収穫した農作物を販売するイベント。

実施履歴

野祭(7回出展)

- ・ 2018(平成30)年 9月 1日
- ・ 2019(令和 1)年 8月31日
- ・ 2020(令和 2)年 9月 5日
- ・ 2021(令和 3)年10月24日
- ・ 2022(令和 4)年 9月 3日
- ・ 2023(令和 5)年 9月 2日
- ・ 2024(令和 6)年 8月31日

出展の状況



出展ブースの状況



水槽(タッチプール)



湿生植物の展示



魚の展示

『野祭』チラシ

第7回 YASAI 野祭

繋ぐこゝで伝わる思い

2024 8/31 (土) 9:30~16:30

会場 南幌町柳陽公園内 (空知郡南幌町栄町2丁目1)

タイムスケジュール

9:30	開場・野菜販売スタート
10:00	ワークショップ
11:00	ステージLIVE
12:00	三輪車レース
14:00	トラクター牽引
16:00	大旗揚げ・閉まり

野祭に関するお問い合わせ先: 農猿 080-3232-9080

日程

令和6年8月31日(土)

時間

9:30 - 16:30

会場

南幌町柳陽公園内 (空知郡南幌町栄町2丁目1)

タイムスケジュール

9:30	開場・野菜販売スタート
10:00	ワークショップ
11:00	ステージLIVE
12:00	三輪車レース
14:00	トラクター牽引
16:00	大旗揚げ・閉まり

会場内での注意事項: 駐車禁止、飲食禁止、ペット禁止

パネル展示

事業紹介

幌向地区の自然再生地の概要

幌向地区の自然再生地の概要

自然再生地の概要

自然再生地の概要

湿原の花

幌向地区の植物

幌向地区の植物

開花時期

開花時期

花カレンダー

幌向再生地の導入種

幌向再生地の導入種

導入種

導入種

仲間募集

ほろむい原野の原風景

ほろむい原野の原風景

ボッグ*の再生をめざします。

ボッグ*の再生をめざします。

北海道9期計画

第9期 北海道総合開発計画

第9期 北海道総合開発計画

北海道総合開発計画

北海道総合開発計画

湿原イベントパネル

チラス(表面)

湿原イベントパネル

チラス(表面)

チラス(表面)

チラス(裏面)

『雪の歌』出演者紹介

『雪の歌』出演者紹介

『雪の歌』出演者紹介

『雪の歌』出演者紹介

湿原イベント

実施履歴

湿原イベント、フットパス
(9回開催)

- ・2016(平成28)年11月20日
- ・2017(平成29)年10月22日
- ・2018(平成30)年 9年 2日
- ・2019(令和 1)年 9月15日
- ・2020(令和 2)年 9月13日
- ・2021(令和 3)年10月30日
- ・2022(令和 4)年 7月10日
- ・2023(令和 5)年10月14日
- ・2024(令和 6)年10月 5日

- NPO「ふらっと南幌」と協働し、地域イベントを企画・実施した。例年30名程度参加。
- 南幌町ビューローから幌向地区自然再生地までの送迎バスとして、ジャンボタクシーを手配した。
- イベント開催時にスタッフが分かるように、スタッフウェアを作成した。
- 湿生植物の移植体験のほか、アイヌ民謡等の演奏会を開催した。
- ヤチヤナギの利活用商品の紹介を行った。



幌向湿原再生の喜び

2024年 10月5日(土) **参加無料**
受付 10:30~

開催場所 夕張川幌向湿原再生地 (標高約5620m)

プログラム

- 午前部 10:30~ 受付開始
- 11:00 湿生植物移植体験
- 12:00 昼食
- 午後部 13:00~ 喜びの歌
- 15:00 解散

無料送迎バス運行のご案内

区間	往	復	乗車料	乗車人数
【札幌】	往	復	4.5	1.0
【帯広】	往	復	1.5	1.5
【旭川】	往	復	1.5	1.5
【網走】	往	復	1.5	1.5

ほろむい湿原再生 NANPORO HOKKAIDO

消えゆく湿原、幌向原野
● 幌向原野は都市化、農地化が進むなど、土地利用が急速に進んだ一方、明治時代に14年続いた夕張川流域の湿原面積は約1割まで減少しています。

ほろむい七草の危機
● ほろむい七草は、現在わずかに生育するのみとなり、生育が危ぶまれています。

地域と連携して、昔の湿原を取り戻すための取り組みを行っています。
● 湿生植物を育成、導入しています。

● 地域参加で導入した植物が成長、開花しています。

● ヤチヤナギを使用したソーセージを試作しています。

お問い合わせ 特定非営利活動法人 しろくま環境事務所
TEL: 090-3971-6655(携帯)
石狩川下流圏域環境再生推進センター(フットパス事務局)
TEL: 011-861-5552 (南ドーム別棟2階的田古丸、丸山、石塚)

北海道の氷辺の環境情報サイト **かわたがほっかいどう**

湿生植物の移植体験



送迎バス



ヤチヤナギを用いた利活用紹介



「喜びの歌」をテーマにしたケーナ、馬頭琴の演奏とアイヌシンガーのコラボ





ヤチヤナギの利活用について



ヤチヤナギについて

ヤチヤナギとは？

- 葉の見た目がヤナギに似ており、谷地(湿地)に生育するのが名前の由来。
※ヤナギの仲間ではなく、ヤマモモ科の低木。
- 寒冷地の湿原や泥炭地に生育、日本では三重県以北と北海道に分布。
- 幌向地区自然再生地にも、多く生育している。
- 湿原の減少に伴って、世界的に個体数の減少が危惧されている。



ヤチヤナギの雄花



ヤチヤナギの雌花



ヤチヤナギの実



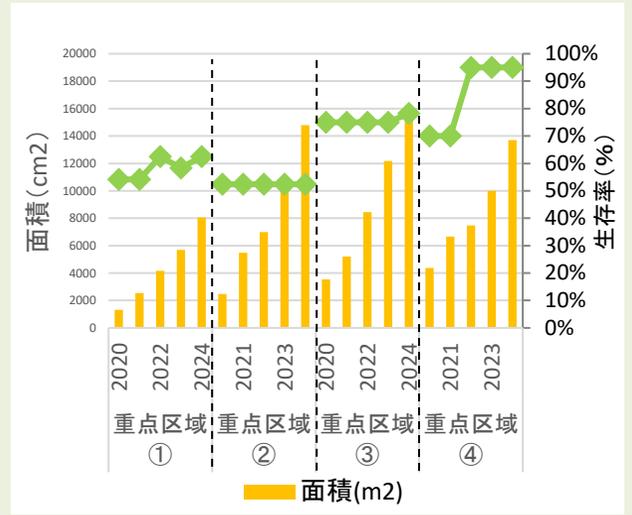
ヤチヤナギの葉

幌向地区自然再生地でのヤチヤナギ生育状況

- 幌向地区自然再生地には、重点区域と一般区域に導入されている。
- モニタリング調査が行われている重点区域では、経年的に生育面積が増加傾向を示しており、生存率も安定している。



ヤチヤナギ生育状況



幌向再生地でのヤチヤナギの利活用

幌向地区自然再生地でのヤチヤナギの利活用

- ヤチヤナギの葉や果実には爽やかな独特な香りがあり、ヨーロッパでは古くからハーブとして活用されており、ホップの代わりに香料としてビールに使われていた。
- 幌向地区自然再生地の事業では、地域おこし協力隊を中心に、開発業者の協力を得てヤチヤナギを原料とした利活用商品を開発・製品化した。
- 2022年にヤチヤナギクラフトビール、2023年にはヤチヤナギ入りソーセージ、バスソルト、2024年はクラフトジンの開発に取り組んでいる。



クラフトジン



ビール



ソーセージ



バスソルト

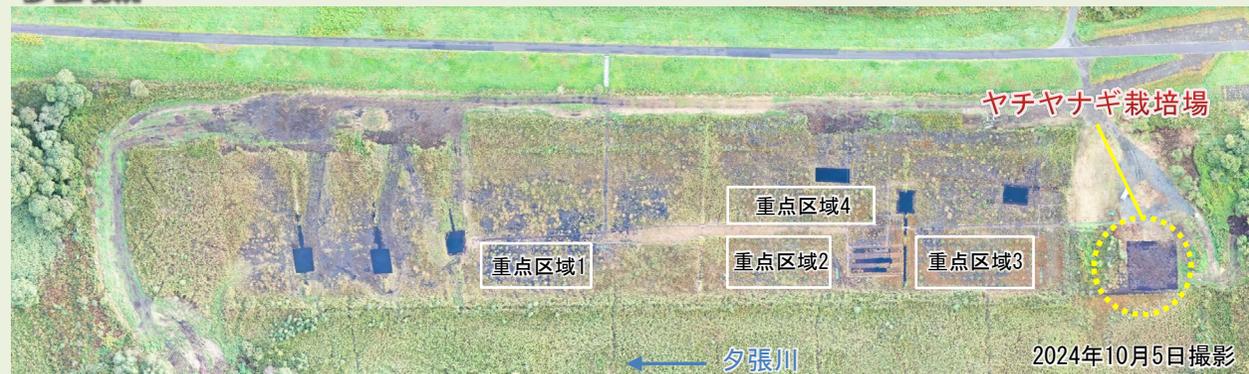


今後、更なる利活用のためヤチヤナギが多く必要

ヤチヤナギの栽培場の整備

- ヤチヤナギの利活用推進のため、ヤチヤナギの栽培場を2024年度(R4年度)に整備した。
- 栽培地は約400m²の範囲で、苗は重点区域に導入したヤチヤナギの植栽間隔と同様に3m間隔で40株を導入した。
- 栽培地はヨシ、ススキ、シラカンバ等が繁茂していたため、植生除去のために表土を30cm程度掘り下げた。

移植場所



植栽地の整備イメージ



移植状況



ヤチヤナギの利活用について

ヤチヤナギと幌向湿原の
魅力を伝えていきます！



利活用施設の整備について

利活用施設の整備の全体

① 端部デッキ

配置: 下流側、重点区域の端部
 形状: 3.0m × 3.0m
 素材: 樹脂(再生ポリエチレン)

② 堤防部階段

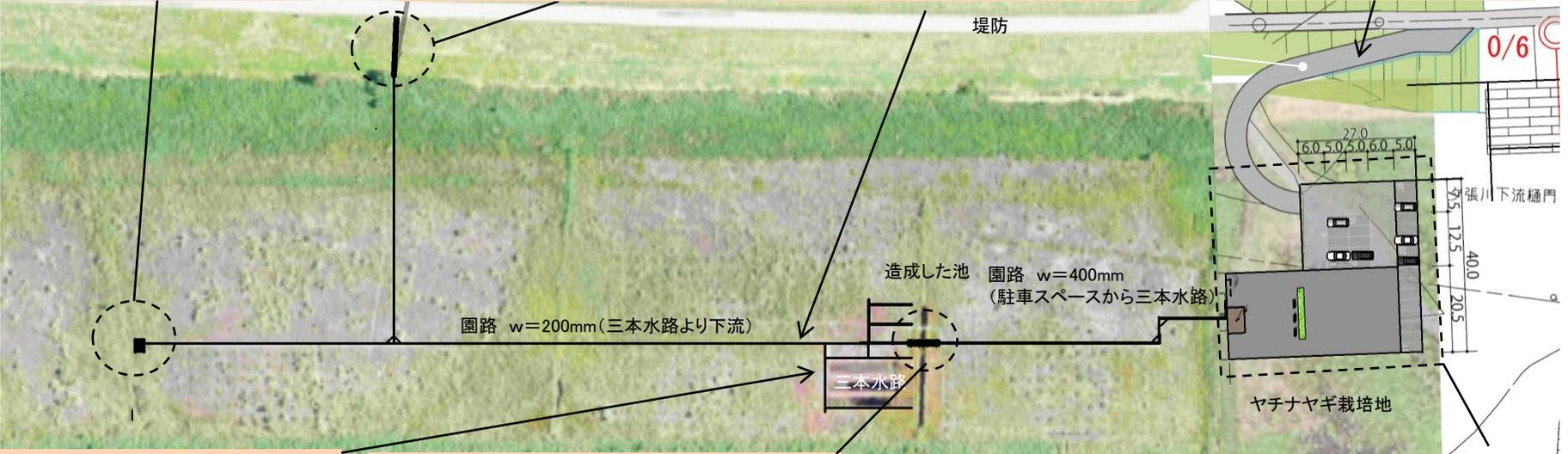
配置: 下流側、堤防法面
 形状: 延長約14.0m × 幅1.0m
 素材: コンクリートブロック

③ 園路

配置: 駐車スペース、三本水路、
 端部デッキ、階段をつなぐ
 幅: 400mmまたは200mm
 素材: 樹脂製の板、樹脂製ペグで固定

④ アクセス路の付替え

堤防から駐車場まで、大型車が
 進入可能な取付道路に変更



⑤ 園路 (三本水路周辺)

配置: 三本水路周辺にコの字型の配置
 水際より800mmの離隔

⑥ 水路ブリッジ

配置: 再生地内の溝をわたる橋
 形状: 延長7.5m × 幅1.0m
 素材: 樹脂(再生ポリエチレン)

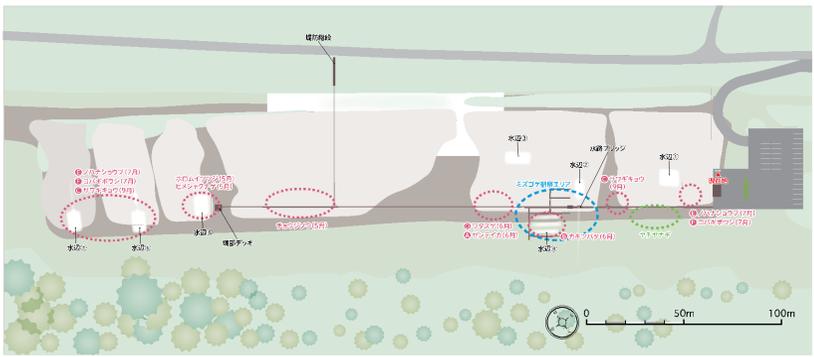
⑦ エントランス・駐車スペース

5000mm, 10000mm, 5000mm, 20000mm, 6000mm, 4000mm, 18000mm
 利活用イメージ

1800



ほろむい湿原再生 NANPORO HOKKAIDO



幌向再生地で見られる花



ほろむい七草



幌向湿原は、我が国における湿生植物研究の発祥の地の一つです。幌向湿原で発見され、赤ロムイを冠する別名がつけられた7種の湿生植物「ほろむい七草」は、湿原の減少に伴い、ほとんど絶滅されていると考えられています。幌向再生地では、ほろむい七草を元めた湿原植物の再生に取り組んでいます。

北海道開発局 札幌開発建設部 江別河川事務所 011-382-2358

南幌町の発展と消えゆく湿原

幌向地区は、石狩川支川の夕張川下流にあり、周辺には江別市、南幌町などが位置しています。夕張川流域には、かつて多様な湿生植物が生育する湿原(幌向原野)がありました。しかし、周辺を石狩川、千歳川、夕張川に囲まれた南幌町は、大雨が降ると氾濫となく夕張川が氾濫し、甚大な被害をもたらしました。洪水対策として昭和初期に新水路工事をを行い、治水事業や農地開発が進んだことで、南幌町は農業の町として発展していきましたが、一方で湿原はほぼ消失してしまいました。

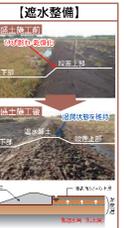
夕張川流域の湿原面積の変遷



湿原再生の取組み

周辺湿地から湿生植物の種子などを採取して育苗し、増やした苗を再生地に導入したり、治水整備を行い地下水位を上昇させるなど、基盤環境の形成などを行っています。特にミスゴケ属は、他の湿生植物の生育基盤となる重要な植物であり、ポツの形成に必要な不可欠な存在です。

【湿性植物の採取・育苗、ミスゴケの育苗】



案内看板

1800



ほろむい湿原再生 NANPORO HOKKAIDO

【利用されるみなさんにお願ひ】

湿原は自由に歩いてごらんいただけますが、繊細な環境でもあるため利用にあたってはつぎのことにご注意ください。



石狩川下流幌向地区自然再生ワークショップ 北海道開発局

注意書き看板